

Symptoms and Upper Gastrointestinal Mucosal Injury Associated with Bisphosphonate Therapy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 果奈 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032486

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3027 号	氏 名	山本 果奈
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山本 雅一	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>ビスフォスフォネート製剤(BP)服用者の自覚症状と上部消化管粘膜障害の現況を明らかにすることを目的とした。BP を 1 ヶ月以上内服している 221 例を対象に F スケール問診票を用い自覚症状を調査し、上部消化管内視鏡検査で粘膜障害の有無を調べ、BP の種類・製剤・併用薬剤別に検討した。結果は、F スケール全体スコア 4(0-34)点、酸逆流スコア 2(0-20)点、運動不全スコア 2(0-16)点、内視鏡所見は食道粘膜障害 22 例(10.0%)、胃十二指腸潰瘍 9 例(4.1%)であった。BP4 の比較では 4 週 1 回製剤のミノドロン酸で運動不全スコアが有意に低く、抗血栓薬と NSAIDs 併用下で運動不全スコアと粘膜障害の頻度が有意に高かった。BP 服用者の有害な自覚症状や上部消化管粘膜障害の頻度や程度は必ずしも高くはないが、抗血栓薬と NSAIDs を併用下で自覚症状や粘膜障害の頻度が高く、多剤服用時には注意が必要である。4 週 1 回製剤のミノドロン酸で自覚症状が軽いため、内服薬として有用であると考え</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			